

コロンビア月例報告（10月分）

外交・内政状況

2016年11月

在コロンビア日本国大使館

E-mail : info@ba.mofa.go.jp

I 概要

【内政】

- 2日 和平最終合意に関する国民投票
- 3日 和平合意反対派との対話枠組の決定
- 4日 双方向停戦の延長
- 4日 パロディ教育大臣の辞任
- 5日 サントス大統領とウリベ前大統領の会談
- 6日 反対派との政策対話
- 7日 サントス大統領のノーベル平和賞受賞決定
- 10日 E L Nとの和平交渉開始予定日の発表（於：エクアドル）
- 12日 ウリベ派による修正提案の提出
- 13日 双方向停戦の追加延長
- 27日 E L Nとの和平交渉開始式典の延期
- 30日 E L Nによる声明

【外交】

- 7日 王中国外交部長の当国訪問
- 13日 アルマグロOAS事務局長の当国訪問
- 25～26日 オルギン外相のCELAC・EU外相会合出席（於：ドミニカ（共））
- 25日 サントス大統領のパナマ訪問
- 26～29日 ペニャ・ニエト・メキシコ大統領の当国訪問
- 28～29日 第25回イベロアメリカ・サミットの開催（於：当国カルタヘナ）

II 本文

【内政】

1 FARCとの和平プロセス

(1) 和平最終合意に関する国民投票

2日、FARCとの和平合意に関する国民投票が実施され、和平合意が僅差で否決された。賛成票が有権者数の13%を超え、かつ反対票を上回ることが和平合意承認の条件とされていた。

投票結果は暫定値で、賛成票 49.78%、反対票 50.21%、投票率は 37.43%であった。サントス大統領は、反対票が上回ったことを認める一方、全ての政治勢力、特に反対を表明した勢力に対話を呼びかけた。

(2) 和平合意反対派との対話

3日、サントス大統領は、ウリベ派等の反対勢力とどのように対話するかについて各党と協議し、ハイレベル特別委員会を設置し、同委員会がウリベ派を含む反対勢力と対話することを決定した。同日夕刻、サントス大統領は、同委員会の委員に、デ・ラ・カジェ和平交渉団長、オルギン外相及びビジェガス国防相を任命した。一方、ウリベ派の民主中道党は、政府と対話するために、次期大統領選の党内候補である、スルアガ候補（前回サントスとの決選投票で敗北）、イバン・ドゥケ上院議員、及びカルロス・ホルメス・トルヒージョ元教育大臣の3名を党の代表に指名した。

(3) 双方向停戦の延長

4日、サントス大統領は、双方向停戦を10月31日まで延長する予定である旨発表した。

(4) サントス大統領とウリベ前大統領の会談

5日、サントス大統領とウリベ前大統領の会談が実施された。政府側からは、オルギン外相、クリスト内相、ビジェガス国防相等が同席し、ウリベ前大統領側は、党内次期大統領候補の3名、ラミレス保守党前大統領候補及びオールドニェス前行政監察庁長官等（注：後者2名はウリベ派ではないが、和平合意に反対的立場であった。）が同席した。会談後ウリベ前大統領は、全てのコロンビア人を包含するような新たな和平合意を探求するために、現在の和平合意に挿入されるべき修正点を示した旨述べた。

ウリベ前大統領との会談に先立ち、サントス大統領は、パストラーナ元大統領とも会談した。

(5) 反対派との政策対話

6日、政府と和平合意内容反対派の間の政策対話が始まった。主要論点としては、残虐な犯罪に対する懲役刑の実施、「人道に対する罪」を犯した者が公職への被選挙権を付与されることへの反対、犠牲者への補償のためにFARCが財産を引き渡すことを明記すること、麻薬関連犯罪を政治関連犯罪としないこと、私有地の接収をしないこと等が含まれていた。

(6) サントス大統領のノーベル平和賞受賞決定

7日、サントス大統領にノーベル平和賞が授与される旨発表された。受賞理由は、コロンビアの50年以上続く内戦を終結させるための確固たる努力とされた。

(7) ウリベ派による修正提案の提出

12日、ウリベ派の民主中道党は、政府に対して和平合意の修正提案を提出した。

(8) 双方向停戦の追加延長

13日、サントス大統領は、12月31日まで双方向停戦を延長した。

2 パロディ教育大臣の辞任

4日、ジナ・パロディ教育大臣は記者会見において辞任を表明した。これに先立ち、パロディ教育大臣はサントス大統領に辞表を提出していた。辞任の理由は、コロンビアの青年・児童に対する奉仕の期間が終わったからであるとした。

なお、和平合意に関する国民投票に際して、パロディ教育大臣は賛成票の弁護人として大統領から指名され、市民運動の促進及び和平合意内容が歪曲されて批判されることを防ぐことが任務とされ、10月2日までの間、教育大臣としての職務を停止していた。本件辞任は大臣職への復帰の翌日になされた。

3 E L Nとの和平交渉

(1) 和平交渉開始予定日の発表

10日、ベネズエラのカラカスにおいて、コロンビア政府と左翼ゲリラE L Nは和平交渉開始に関する発表を行った。政府側代表のマウリシオ・ロドリゲス（元駐英コロンビア大使、大統領夫人の実兄）及び（通称）パブロ・ベルトランE L N中央司令部員（本名：イスラエル・ラミレス・ピネダ）が本件に関する共同声明を読みあげた。本件発表に際して、和平交渉の保証国として、ベネズエラ、エクアドル、キューバ、チリ、ブラジル及びノルウェーの代表が立ち会った。

同共同声明は、和平交渉がエクアドルのキトにおいて、10月27日に開始され、同日までに、E L Nが確保している人質を解放するとのものであった。

(2) 交渉開始の延期

27日、エクアドルのキトにおいて開催が予定されていたコロンビア政府とE L Nとの正式な和平交渉開始式典が延期された。

和平交渉開始の条件は、E L Nが（政府が公式に認知している範囲での）全ての人質を解放することであった。オディン・サンチェス元下院議員の解放のみが残っていたが、27日に赤十字及びカトリック教会の支援の下、解放プロセスが開始されていたものの、27日午後、サントス大統領はオディン・サンチェス氏の身の安全及び帰還が確認された後に式典を開催する旨を発表し、27日の式典開催を延期した。

(3) E L Nによる声明

30日、サントス大統領はオディン・サンチェス氏の解放を再度要求した。これに対してE L Nは声明を発出し、政府との合意事項は、10月27日までに人質2名を解放し、もう1名は、和平交渉開始後、最初の交渉ラウンド中に解放することであり、E L Nとしては約束を守っており、政府側が約束を破ったとして非難した。

【外交】

1 王中国外交部長の当国訪問

7日、王中国外交部長が、ペルー、エクアドル及びボリビアを含む南米歴訪の途次コロンビアを公式訪問した。訪問中、王外相はサントス大統領及びオルギン外相と会談した。オルギン外相との会談において、両外相は、通商協定のフィージビリティ・スタディの開始に関して協議し、オルギン外相は、開始のためのステップ及び日程につき具体化することを約束した。サントス大統領との会談の主要議題は、二国間協力、インフラ・プロジェクト、農業プロジェクト及び通商関係であった。

2 アルマグロOAS事務局長の当国訪問

13日、アルマグロOAS事務局長が当国を訪問し、サントス大統領及びオルギン外相と会談した。アルマグロ事務局長は、和平合意をできるだけ早急に修正する必要があるとの見解を示した。

3 オルギン外相のCELAC・EU外相会合出席（於：ドミニカ（共））

25～26日、オルギン外相はドミニカ（共）で開催されたCELAC（中南米カリブ諸国共同体）・EU外相会合に出席した。同会合の機会に、オルギン外相は、ポーランド、リトアニア、英国、スロバキアの各外相と会談した。

4 サントス大統領のパナマ訪問

25日、パナマのダリエン県において、サントス大統領はバレーラ・パナマ大統領とともに、初の首脳級の治安・移民関係当局間会合を開催した。同会合にはビジェガス国防相も同席した。

5 ペニャ・ニエト・メキシコ大統領の当国訪問

当国カルタヘナで開催された第25回イベロアメリカ・サミットへの出席に先立ち、26～27日、ペニャ・ニエト・メキシコ大統領が当国を国賓として訪問した。首脳会談の際、両首脳立ち会いの下、両国間の協力に関する文書が9本署名された。また、ペニャ・ニエト大統領はコロンビア和平プロセスへの支援を改めて表明し、100万ドルに上る地雷除去に関する協力を発表した。

6 第25回イberoアメリカ・サミット開催

28～29日、当国カルタヘナ市において第25回イberoアメリカ・サミット開催された。合計22カ国の代表が参加した。

大統領が参加した国は、アンドラ、チリ、コロンビア、エクアドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、ポルトガル、ドミニカ（共）であり、スペイン国王も参加したほか、コスタリカ、ニカラグア、ウルグアイの副大統領、アルゼンチン、ブラジル、キューバ、エルサルバドル、パラグアイ、ペルー、ベネズエラの外相、グアテマラ次期国連事務総長も参加した。

最終宣言文として「カルタヘナ宣言（青年、起業及び教育）」が発出された。